

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		道田 泰司		所 属		教育学研究科 教職実践講座		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う(ゼミ, 集中講義も含め, 前期週8コマ, 後期週6コマ) ・丁寧な授業準備と授業改善 ・受講生から授業改善のための積極的な意見の聴取, それに基づく振り返り ・ゼミ所属学部学生(計7名)を中心とした教育実習の視察・指導助言, 進路相談・指導など ・学生への進路相談 				0.25	<p>前後期とも, 登録者のいない授業を除き, 予定通りに授業を行った。 毎回の授業に際しては, 前年度の反省を活かし, 改善をしつつ行った。 ほとんどの授業で, 学生に毎時間振り返りカードを書かせることで, 学生からの意見聴取を行った。 ゼミ生を中心に実習視察, 助言等を行った 共通教育科目でプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー(人文系科目)を受賞した</p>				
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集, 分析, 学会発表, 投稿(科研費のプロジェクト) ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・書籍などへの原稿執筆, 編集など 				0.25	<p>科研費プロジェクトのデータ収集・分析／別の科研費プロジェクトの計画立案補助 ／編著書1冊刊行, 1冊企画中／紀要論文1本刊行, 1本投稿中／学会誌論文1 本投稿中／全国学会で発表1件</p>				
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許更新講習の講師 ・その他研修会における講師 ・小中学校などにおける校内研講師 				0.15	<p>免許更新講習講師(必修領域:2日間)／小学校2校, 中学校2校で校内研講師／ 国際医療福祉大学FD研修講師／福岡県私学協会学力向上研修会講師／日本語 教育学会で公開講演会講師・研修会講師／明るい選挙推進協議会若者リーダー フォーラム(九州ブロック)講師</p>				
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院における入試業務遂行 ・教職大学院におけるフォローアップ委員として ・附属中学校校長として 				0.35	<p>複数教員で持つ授業科目運営に協力した／入試業務に従事した／教職大学院の 会議に参加した／附属中学校校長として, 管理運営の一翼を担った</p>				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉尾 幸司	所 属	教育学研究科 教職実践講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	教職大学院における担当授業等について、学生による授業評価等を定期的に行い、学生の視点を反映した授業改善を図る。また、他の教員の授業を2科目以上参観し、自身の授業改善の参考にする。課題研究等での指導に関しては、個々の学生の希望や興味・関心を尊重した細やかな対応を心がける。		0.00	教職大学院における担当授業について、学生による授業評価を実施し、授業の構成等を工夫するなど授業改善を図った。また、他の教員の授業を、前後期に各1科目(合計2科目)参観し、自身の授業改善の参考とした。課題研究での指導に関しては、授業時間以外にも研究室での面談や電子メールでの情報交換を頻繁に行い、学生の希望や興味・関心を尊重した細やかな対応を実施した。	
研究	0.35	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会等での発表や研究論文等の投稿に努める。また、科学研究費補助金等の外部資金の獲得を積極的に行う。		0.00	外部資金として、「科学研究費補助金(基盤研究C:分担者)」を獲得し、研究を進めた。また、これまでの研究成果は、学会において発表するとともに、論文投稿を行い、全国誌に1報掲載され、大学院紀要に1報掲載予定である。	
社会 貢献	0.15	附属学校を含む小中高の学校現場等との連携活動を推進し、様々な教育的課題についての解決に向けた取り組みに協力する。また、県教委等の教育行政からの要請等にも積極的に対応する。		0.00	附属学校および連携協力校での授業研究会等に参加し、授業改善を含む教育現場の課題についての助言を行った。また、県教委の委嘱を受け、スーパーサイエンスハイスクールの運営指導委員として、SSH校への指導・助言・評価等を行った。	
管理 運営	0.15	教職大学院における委員会活動や県教委との連携推進会議等において役割を果たすとともに、全学的な委員会活動についても積極的に協力する。		0.00	教職大学院における委員会活動、県教委および連携協力校との関連会議等において役割を果たした。全学的な委員会活動については、琉球大学博物館(風樹館)運営委員会委員として琉球大学博物館の運営に協力した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		0.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 洋	所 属		教育学研究科 高度教職実践専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.50	シラバスを基にしながら、当該学生の状況等に応じて、適宜柔軟に修正を図りながら、学生の理解に資するように授業を行う。特に、受講生の人数やその所属等については、授業を進めるうえで、十分な配慮を心がける。 高度教職実践専攻1年次指導教員として、開設初年度の学年ゆえ、不明な点等が少なからず予想されるため、丁寧なやり取りに努める。			0.50	授業については、100人を超える学生が受講する共通教育の「憲法概論」では、講義中心の形態ながらも簡単なレポートを課すなどする一方で、高度教職実践専攻の授業では、少数かつ専門職学位課程であることから、問題設定型の討論中心の授業を行うなど、規模や特性に応じた授業を試みた。 高度教職実践専攻1年次学生の指導教員として、大学院生としての個人を尊重しつつ、円滑な学生生活を送れるような援助を心掛けた。		
研究	0.30	期間を1年延長した科研費の課題「災害発生時における学校の法的責任」について、確実にまとめる。			0.30	科研費の課題である「災害発生時における学校の法的責任」について、最終年度であることから、年度末までにまとめる予定である。		
社会 貢献	0.05	教員免許状更新講習の講師として、学校現場で役立つような講義とすべく、内容を工夫する。			0.05	教員免許状更新講習の選択必修講座を担当し、学校で発生した具体的事例とその裁判例を使って、受講者が身近に感じられるような授業を試みた。 中学校の校内研修などの講師として、受講者が教育法規について理解を深める一助にすべく、できるだけ具体的な内容になるように努めた。		
管理 運営	0.15	副専攻長として、専攻長の補佐に努めるとともに、FD委員会の一員として、認証評価に向けた実績作りに努める。			0.15	専攻の副専攻長として、隔週開催の専攻会議を中心に専攻長の補佐に努めるとともに、専攻長に代わり週1回の運営会議に出席し、その議論に参加した。 専攻のFD委員会の一員として、相互授業参観・授業公開などのFD活動について企画・運営を行い、認証評価への準備を進めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		吉田 安規良		所 属		教育学研究科 教職実践講座		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.15	学士課程の担当科目はほぼ全て「教員養成」と密接に関連しているため、教職志望の学生が、将来黒板を背にして教壇に立ったときに困らないような教育活動を一教員として行う。 専門職学位課程の担当科目については、設置計画が達成できるよう肅々と行う。				0.15	教育活動は左記目標が達成できるように努力した。 定期昇級区分がCなので、これで「普通」という評価なのだろう。				
研究	0.10	教職大学院の履行状況への対応や、学長補佐時代の残務処理の管理運営業務があることと、科研費等の外部資金も獲得できなかったため、時間的・金銭的余裕がないことから必要最低限の研究を継続することにとどめる。				0.05	時間がなく、面白みのある研究の芽生えを育てるまではできなかった。 定期昇級区分がCなので、これで「普通」という評価なのだろう。				
社会 貢献	0.20	教員免許状更新講習ならびに沖縄県教育委員会教育職員免許法認定講習の講師として、あるいは各種研修会・研究発表会に参加することを通して地域の現職教師教育に貢献する。				0.20	左記目標は達成した。沖縄県教育委員会以外にも、宜野湾市教育委員会の長期研修員指導、那覇市立教育研究所での研修を担った。 定期昇級区分がCなので、これで「普通」という評価なのだろう。				
管理 運営	0.55	グローバル教育支援機構業務、教職大学院の所掌業務を行う。 全学的な初等中等教育教員養成の在り方の検討など、学長補佐時代の残務を行う。				0.60	学内行政(管理運営)に携わり、所掌業務の遂行に尽力した。残務はできるだけ処理をしたが、新たな問題が生じるなどしたため、きれいに処理できてはいない。 定期昇級区分がCなので、これで「普通」という評価なのだろうが、これで「普通」なら、これ以外の観点で創造的で面白いことをしたいし、現状を超える評価を得る仕事量がどのようなものなのかを明示してほしい。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上間 陽子	所 属		教育学研究科 教職実践講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	3.00	教職大学院においての新しい授業の企画、実施を行う。			0.30	達成した。そのほか、講座の授業、学部の授業をすべて週末に集中講義で実施した。		
研究	5.00	科研(C)の最終年度であるため、以下の課題に取り組む。1風俗調査のまとめ、2貧困問題を教員はどう捉えているのかのききとり、3若年出産の女性へのインタビューないしはまとめ(* 次年度の科研につなげる予備調査の位置づけ)。『atプラス』(太田出版)、『排除と移動の社会学(仮)』ナカニシヤ出版、『セクシャリティ』への発表を予定。科研(B)に関しては東京大学出版会からの出版予定の本が刊行される予定。			0.50	1、2についてほぼ完了し、3の計画を拡張して、次年度「若年出産女性調査」を未来ふあんの助成を受け実査予定になっている。また東京大学出版会刊行の著作(YCSJの報告)は、執筆は終了したものの刊行がおくれている。なお『atプラス』は執筆を完了し、科研のまとめとして『裸足で逃げる』太田出版を2月1日に刊行した。また県から依頼された学力検査の分析に関するリーフレットを作成し、全県に7月に配布した。		
社会 貢献	1.00	珊瑚舎スコーレ夜間中学校への参加、授業づくりを行う。			0.10	達成した。		
管理 運営	1.00	教職大学院において、FD委員を担当。			0.10	FD委員として、授業評価アンケートを作成し、実施した。		
	0.00				0.00			
計	10.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名前	伊禮 三之		所属	教育学研究科 教職実践講座		職名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・学生支援	0.40	(1)教職大学院の院生に対して、共通科目・選択科目を通して、実践と理論を往還しながら実践的思考様式の形成に資する指導を展開する。 (2)大学院で行う「学習指導に関する科目群」は、院生の学びが深まるよう教材の本質を貫く「柱となる問い」「深い問い」を軸に協同学習による授業展開(アクティブラーニング)を心がける。 (3)大学院で行う授業以外の院生を帯同した取り組み(フィールドワーク・現場の授業研究・講演会・資料収集等)を積極的に行う。 (4)教職大学院の院生以外の研究科院生及び学部学生に対して、要望があれば修論・卒論等に向けた支援を行う。		0.30	(1)教職大学院の選択科目を主に担当し、実践例を織り込むながら理論との往還を心がけ実践的思考様式の形成に資する指導を展開した。 (2)担当した「学習指導に関する科目群」では、「深い学び」を指向したアクティブラーニングの手法による講義展開を心がけたが、受講者が少ないなど限界も感じた。 (3)院生とともに課題研究(沖縄の平和教育・沖縄の古典教材)に向けた資料収集を行ったが、年間を通しての継続性がなかった。 (4)学部及び教育学研究科の数学教育関連の講義にゲストティチャーとして協力した。また学部の教職研究や模擬授業のゲストティチャーとしてHR作りや授業作りの指導を行った。また学部子ども地域教育コースの学生の卒論指導に協力した。さらに附属教育実践総合センターの主催する教採合格者等への特別講座に講師として協力した。			
研究	0.30	(1)科研費課題(基盤C)「探究的な学びを促すResearcher-Like Activity」による授業の事例研究」の最終年度にあたる本年は、第3回研究会と成果還元事業の「きらめき☆ときめき」を開催するとともに、研究のまとめとしてシンポジウムを開催する。 (2)次期科研費申請に向けて、アクティブラーニングとResearcher-Like Activityの関係性を整理するとともに、これまで蓄積してきた開発教材をアクティブラーニングの視点から再編する。 (3)教職大学院の大きなテーマである教師教育に関する研究にも取り組む。		0.30	(1)科研費課題に関わる第3回RfA研究会を福井大学で開催し、基調講演及び招待講演、4本の講演、2本の報告を受け充実した内容となった。また福井大学の「きらめき☆ときめきサイエンス」に講師の一人として参加し、研究成果の還元を行った。研究のまとめのシンポジウムは予算との関係で開催することができなかった。 (2)「トイレットペーパーは何巻？」等の教材をアクティブラーニング(AL)の視点から再編し、数学教育におけるALの類型化(RfAの関係性も含む)を試み、私案を各地(愛媛・大阪・宜野湾市・千葉・福井・愛知等)の講演で提案した。そして、「数学教育におけるALの類型化とその事例開発に関する研究」をテーマに次期科研費申請を行った。 (3)教師教育に関する研究として単著論文「教職希望学生に対する現実世界との往還による数学の授業」(教職大学院紀要)と多和田実(附属教育実践総合センター)との共著論文「『新たな学びを展開できる実践的指導力』の育成に関する考察—『教職研究』を通して—」(学部紀要投稿予定)を著した。			
社会貢献	0.20	(1)県内外を問わず招待講演や共同研究等の依頼は積極的に引き受ける。 (2)学部附属教育実践総合センターの「アドバイザースタッフ派遣事業」の一員として、学校現場の校内研修等に積極的にに関わり、自身の研究成果を地域に還元するとともに沖縄県の教育課題の改善に資する。 (3)教員免許状更新講習や公開講座等を担当し教師の力量形成に資するとともに地域の高校生に研究成果を還元する。 (4)沖縄市教育委員会と共催して教職大学院オープン講座を開催する。		0.30	(1)県内(宮里小・宜野湾市教育委員会・八島小)／沖縄県幼児連盟・沖縄少年院・全国珠算連盟沖縄支部)及び県外(愛媛・大阪・千葉・愛知)の招待講演、また県内外の共同研究(宮里小・八島小・宜野湾中／埼玉自由の森学園)等精力的に引き受けた。 (2)「アドバイザースタッフ派遣事業」等の一員として、小(津瀬・宜野湾・宮里・八島)・中(宜野湾・大浜)・高校(球陽・中部商業・豊見城南)の学校現場の校内研修等(指導助言・示範授業・ワークショップ)に述べ45回関わり、専門的な立場から指導助言を行うとともに研究成果としての開発教材を教育現場に提供した。 (3)教員免許状更新講習「沖縄の学力問題とわかる学力を育む算数の授業作り」を開講した。公開講座や出前講座を開設したが残念ながら応募者がなかった。 (4)各地の教育委員会等と共催して教職大学院オープン講座の講師の一員として参加した。 (5)若い高校数学教師の学びの会「高校数学教育を楽しく学ぶ会」を立ち上げ、2月に1回のペースで開催した。 (6)2017年度開催の数学教育協議会第65回全国研究(沖縄)大会の準備委員会委員長、2019年度開催の日本数学教育学会第101回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会の大会実行委員長を担った。			
管理運営	0.10	(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。 (2)教職大学院の紀要編集委員として、本年度研究紀要を発行する。		0.10	(1)教職大学院の開設記念シンポジウムの企画など教職大学院全体の円滑な運営に微力ながら尽力した。 (2)教職大学院の紀要編集委員長として、紀要規定の整備を行い、研究紀要第1号を発行した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		丹野 清彦	所 属		教育学研究科 教職実践講座
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	<p>(1)大学院の院生に対して、共通科目、選択科目を通して、経験知と学術的な知見が融合しながら新たな知見が見出せるように指導する。</p> <p>(2) 大学院で行う生活指導・生徒指導の実践と課題などの授業では、大学院生が①指導とは何か、と本質的な見直しをし、②その課題を実践例や自分の実践を報告し合うことから見つけ、見直し構想が立てられるようにする。</p> <p>(3)学部 の「特別活動」においては、子どもたちが学級の主人公となり、自由に意思表示を行うことができる仕組みをつくることが重要であることを理解して、授業構想が立てられるようにする。</p> <p>(4)教職大学院の院生以外の学生に対して、学生の要望があれば、自身の専門性を活かし実践や理論を紹介し卒論に向けた支援をすることも考えている。</p>		0.50	<p>(1)と(2)に関しては、大学院の学生のこれまでの実践や生活指導に対する知見を把握し、それを逆転させるような事例を中心に講義を展開した。そのことにより、これまでの大学院生たちの見方を広げることが感想等から読み取ることができた。</p> <p>(3)に関しては、グループ活動を工夫して取り入れ、アクティブラーニング的に学ぶ場面と振り返りの場面を取り入れた。授業後の学生の感想を読み、方法や仕方を修正しながら行い、好評だった。</p> <p>(4)に関しては、要望を受け学生の支援に努めた。</p>
研究	0.30	<p>(1) 教職大学院の講義や実習のあり方について、実践しながら研究し特徴を活かす実施方法を明らかにする。</p> <p>(2) 生活指導の理論と実践について、竹内常一氏に関する基礎的な研究作業を進める。</p> <p>(3)沖縄市の小学校へ足を運び、沖縄市の学校が抱える課題を明らかにし、学力向上と生活指導の両面から改善できる方法を探る。</p>		0.30	<p>(1)に関しては、実習に繰り返し参加することを通して、毎日の時間割の必要を感じ、それが大学院に広まるなど、少しずつ特徴を生かす方向で明らかにしているところである。(2)と(3)に関しては、現在も取り組んでいる課題であり丁寧に積み重ねることを今後も繰り返していきたい。</p>
社会 貢献	0.10	<p>(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、該当学校に10回以上赴いて協力して研究を深める。</p> <p>(2)全国生活指導研究協議会や大分県教組、中頭地区の組合の要請に応え、毎年、毎月の定例学習会へ参加し、子どもの問題行動を減らし、楽しい学校づくりに協力、貢献する。</p>		0.10	<p>(1)と(2)については、年間40回を超える要請があり、予定を調整することで、すべてにこたえることができた。</p>
管理 運営	0.10	<p>(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。</p> <p>(2) 教職大学院の実習委員として関係諸機関と連携をとりながら円滑な運営に努める。</p>		0.10	<p>大学院としては初年度ということもあり、戸惑うこともあったが、教職大学院の職員や関係機関と連絡を密にし、連携を図りながら運営に努めた。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	白尾 裕志		所属	教育学研究科 教職実践講座	
職名			職名	准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.50	<p>(1)教職大学院の院生に対して、共通科目、選択科目を通して、経験知と学術的な知見が融合しながら新たな知見が見出せるように指導する。 (2)「社会科教育研究」では、学生が①教材の開発方法、②授業の展開方法、③児童の掌握方法を理解し、授業構想が立てられるようにする。 (3)「生活科教育研究」においては、生活科が児童の生活を学校(教育)で自由に表現できる仕組みをつくるのが最も重要であることを実践の分析を通して理解できるようにして、授業構想が立てられるようにする。 (4)3年次のゼミ指導では、代表的な社会科教育実践から社会科の授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深め、卒論構想を立てることができるようにする。4年次の卒論指導では、構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を展開する。</p>		0.30	<p>(1)教職大学院の院生に対して科目履修、実習を通した研究課題の明確化に努めたが、研究方法として院生自らが経験知以外の学修による気づきに十分に至ってはいないことが課題である。 (2)「社会科教育研究」では、学生の授業構想力の育成に向けて、①授業分析、②授業構想演習、③見本授業を示し、授業構想を指導案として表せるようになった。 (3)「生活科教育研究」では、生活科の本質についての理解を先行実践や学習指導要領から学び、授業構想につながる指導をした。授業構想を指導案として表せるようになった。 (4)3年次のゼミ指導では、代表的な社会科教育実践から社会科の授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深め、卒論構想を立てることができるようになった。4年次の卒論指導では、構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を進めたが、構想の詰めが甘いことから、仕上げに手間取った学生もいた点は反省点である。また採用試験合格後の取組に差が出たことが課題である。</p>
研究	0.30	<p>(1) 教職大学院の実習のあり方について、実践しながら研究し、実習の特徴を活かす実施方法を明らかにする。 (2) 教育社会学が明らかになってきた学力についての研究成果を基に学校現場での学力向上に向けた実践的提案についての研究を進める。 (3) 生活教育、社会科教育の実践者であった若狭蔵之助に関する基礎的な研究作業を進め、学会等で発表する。</p>		0.10	<p>(1) 教職大学院では理論と実践の融合を科目履修、実習、それぞれと双方の中で院生が試みるように促す指導をした。 (2) 卒論指導を通して、宜野湾市の学力向上取組を明らかにしながら、その課題や成果について確認し、卒論に反映できるように指導した。また卒論は宜野湾市教委に提出する予定である。 (3) 生活教育、社会科教育の実践者であった若狭蔵之助自身及び若狭に関するの先行研究として1960年代の実践(主に雑誌「生活教育」)から資料を収集した。また先行研究として新井孝喜(茨城大学)を得た。現在、論文化に向けた構想中である。 (4)教育方法学の研究として「鈴木正氣実践『久慈の漁業』(小学5年社会科)におけるアクティブ・ラーニングについての検討」をまとめ、教職大学院の研究紀要に応募した。 (5)日本社会科教育学会から論稿依頼「『地域再生』と向き合う社会科教育」を受け、「福島の水産業」の復興の道りと社会科教育の授業実践構想案を作成中である。2月に福島県いわき市を中心に調査を行う予定である。(論文締切5月中旬)</p>
社会 貢献	0.10	<p>(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、該当学校に赴いて協力して研究を深める。 (2)宜野湾市いじめ問題専門委員会委員長として「いじめ」の未然防止に努める。(3)嘉手納町2学期制検討委員会委員長として2学期制の検証にあたる。</p>		0.10	<p>(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、長田小学校での国語の提案授業、理論研修、研究授業、に参加して、同校が掲げる研究テーマ「思考力を育てる授業づくりー 国語科「読む力・書く力」の育成を通してー」に基づいて指導助言を行った。 (2)宜野湾市いじめ問題専門委員会委員長として、委員会に参加して「いじめ」対応について、助言したり、自らのいじめ事例対応について講演した。 (3)嘉手納町2学期制検討委員会委員長として、委員会の協議を進行し、必要な助言等をしたまた、2学期制の検証のアンケート作成について助言した。 (4)戦略的経費を使った「教育学部・附属学校と沖縄県下の教育委員会・学校の協働による人材養成プロジェクト」において、沖縄市、島尻地区、石垣地区で累計で200名を超える参加者を得て「教師塾」を開催した。</p>
管理 運営	0.10	<p>(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。 (2) 教職大学院の実習委員として関係諸機関と連携をとりながら円滑な運用に努める。</p>		0.50	<p>(1)教職大学院全体の円滑に運営するために運営上必要な資料作成、関係機関との連絡及び調整に多くの時間を割き、不届きな反省点や課題等もあるが大きな支障に至ることなく運営できている。 (2) 教職大学院の実習委員として、常に関係諸機関と連携をとりながら円滑な運用に努めている。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		藏満 逸司	所 属		教育学研究科 高度教職実践専攻
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	<p>(1)教職大学院の院生に対し、「思考・判断・表現力育成の課題と実践」などの共通科目と「学習指導のための教材・教具の開発と活用」などの選択科目を通して、教員に求められる「普遍的資質能力」と「これからの時代で特に求められる資質能力」が高まるよう指導する。</p> <p>(2)実務家として求められる小学校での勤務経験を、単に過去の経験談として紹介するのではなく、学問的に位置付けて院生に伝える。また、講話だけでなく、ビデオ・授業記録・実物資料・教具などを提示したり、模擬授業を院生対象に行うなど伝え方を工夫する。</p> <p>(3)実践に役立つ新聞書籍等の文献や全国の教育研究者の研究動向についても随時紹介し、幅広い視野で最新の教育情報に院生が触れ刺激を受けることができるように心がける。</p>		0.50	<p>(1)教職大学院の院生に対し、共通科目と選択科目を通して、教員に求められる「普遍的資質能力」と「これからの時代で特に求められる資質能力」が高まるよう指導を行った。特に「学習指導のための教材・教具の開発と活用」においては、大学の提供するWebclassのシステムを利用し、事前に資料を配布した上で簡単な確認テストに回答させるなどの反転授業を試みたり、授業後に感想と質問を書き込ませて個別に回答を行ったり、模擬授業の感想と質問をオープンな場で互いに交流させるなどの試みを行い一定の成果を得た。</p> <p>(2)実務家として求められる小学校での経験を、著書、雑誌論文、新聞記事、映像などによる記録で具体的な事例として紹介すると同時に、授業づくりや学級経営などについて理論的な説明を行った。</p> <p>(3)全国の実践を文書や映像で紹介し、幅広い視野で最新の教育情報に院生が触れ刺激を受けることができるように心がけた。</p>
研究	0.30	<p>(1)教職大学院の授業のあり方について、実践を重ねながら常に振り返り改善していく。</p> <p>(2)アクティブ・ラーニングの義務教育段階における実践を収集し整理する。</p> <p>(3)iphone・ipadの教育利用について整理しわかりやすい形で公開する。</p> <p>(4)世界自然遺産登録を目指す琉球弧の資産を教材として見直し授業プランを作成する。</p>		0.30	<p>(1)教職大学院の授業のあり方について、特にリフレクションの方法に重点を置いて研究し、Webclassの活用など実践を行った。</p> <p>(2)アクティブ・ラーニングの義務教育段階における実践を収集し、特に協働学習について整理した。</p> <p>(3)iphone・ipadの教育利用について整理し、単著にまとめた。 『教師のためのiPhone & iPad 超かんたん活用術』(黎明書房)</p>
社会 貢献	0.10	<p>(1)教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザースタッフ派遣事業」に登録し、要請があれば模擬授業などを通して研究活動の成果を地域に還元する。</p> <p>(2)教員免許講習でIT教育を担当し情報モラル教育等について具体的に講義を行う。</p> <p>(3)現場教育の教育実践に役立つ入門書を執筆し論文としてまとめる。</p>		0.10	<p>(1)長田小学校、天久小学校、南西中学校、宮里小学校で講話を行った。また、宜野湾市はごろも学習センターでの視聴覚研修会、中城村枝種間交流連携研究会で講話を行った。宮古島市教育研究所の二名の研修員の指導者として検証授業公開授業などに指導者として参加し指導や講話を行った。(2)教員免許講習でIT教育を担当した。</p>
管理 運営	0.10	<p>(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。</p> <p>(2)教職大学院一期生の年次担当教員として主たる担当教員である田中洋教授と協力して院生の研究活動をサポートする。</p>		0.10	<p>(1)教職大学院の広報担当者として円滑な運営に尽力した。</p> <p>(2)教職大学院一期生の年次担当教員として主たる担当教員である田中洋教授と協力して院生の研究活動をサポートした。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		村末 勇介	所 属		教育学研究科 教職実践講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	(1)教職大学院の院生に対して、それぞれの課題発見ならびに課題解決方法の具体的な把握がなされるよう、共通科目、選択科目を通して、理論を踏まえた実践的な指導を行い、日常的な関わりを持つ。 (2)学部学生に対しては、学級づくりや教科教育実践、性教育実践等、そのニーズに応じて適宜助言、共同研究ができるようにする。		0.40	(1)教職大学院学生に対して、追究する課題が明確になるよう、担当授業の中で意識的に資料を準備したり、個別指導において文献紹介などを行った。 (2)学部学生に対しては、「特別活動の研究」の授業を中心として、学級づくりや教育実践についての基本的な考え方についての学びの場を持つことができた。
研究	0.30	(1)教職大学院における授業のあり方について研究し、具体的な実践を通して工夫・改善の視点を明らかにする。 (2)自尊感情を育む教育実践の現状と課題を明確にし、教育現場での具体的な実践方法を提案するための研究を進める。		0.30	(1)教職大学院における授業内容の策定と教材の開発・工夫に努め、課題を設定することができた。 (2)中学生男子の性教育を中心に、飛び込み授業を通じた実践的研究を進め、紀要論文としてまとめることができた。
社会貢献	0.10	(1)教育学部附属教育実践センターの「アドバイザースタッフ事業」に積極的に協力し、教育現場との連携による実践・理論研究に努める。 (2)民間団体である「がん教育」や「性教育」に関する実践・研究グループとの共同研究を積極的に進め、地域に根差した研究の推進と、情報の提供に努める。		0.20	(1)「アドバイザースタッフ事業」を通して、9回の授業・研究会講師を務めるとともに、教育現場の視察に意識的に出かけていくことができた。次年度は、さらに増やしていきたい。 (2)県内のがん患者会や性教育研究団体、その他の教育研究サークルとのつながりができ、活動の場を広げることができた。
管理運営	0.10	(1)教職大学院の初年度にあたり、計画的な職務の遂行に努め、次年度からの円滑な運営に資することができるよう、資料収集と課題把握に努める。 (2)教職大学院のホームページ作成を行い、定期的な更新作業を行う。		0.10	(1)教職大学院の一員として、役割を担えるように今後積極的に取り組んでいく必要がある。 (2)教職大学院のホームページを開設することができたが、更新の頻度をもう少し増やす必要がある。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		比嘉 俊	所 属	教育学研究科 高度教職実践専攻	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞から教育に関する時事問題を授業で扱う(毎時間) ・採用試験に向けてのアドバイスまたは補講(1回/月) ・教育現場と連携し、学生の視察校または研究実践校を紹介する(2校) ・学生同士の交流を図り、科目目標に近づく知を練り上げる授業の展開(毎時間) 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞から教育に関する時事問題を授業で扱った(毎時間, 学部授業のみ) ・採用試験に向けての補講を実施(2回/月) ・教育現場と連携し、学生の視察校または研究実践校を紹介する(3校) ・学生同士の交流を図り、科目目標に近づく知を練り上げる授業の展開(毎時間) 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)へのエントリー ・学会誌への投稿 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)へのエントリーしたが、不採択 ・科学研究費助成事業(基盤研究)へ申請中 ・学会誌への投稿(1本共著査読中, 2本不採択) ・琉球大学教職大学院/教育学部 紀要への投稿 ・科学研究費助成事業(研究代表道田泰司)の研究協力者 	
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の理科教育研究会主催イベントへ参加(公開実験: 1回) ・地域の小中学校へ月に2回訪問(2時間/回) ・学校関係の研修会などでの講師(2回) ・附属中学校校内研への参加(5回) 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の理科教育研究会主催イベントへ参加なし ・地域の小中学校へ年間に5回の授業参観にとどまった ・学校関係の研修会などでの講師として参加(12回) ・附属中学校校内研または研究推進委員会への参加(15回) ・公立中学校で師範授業を行った(3回) ・理科教育サークル事務局 ・理科教育メーリングリスト管理者 ・小学校教員メールマガジンの原稿執筆(3回) 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院の円滑な運営に努める 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院の円滑な運営に努めた ・教育実習における, 協力校との密な連携を行った ・教職大学院年報編集委員 	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		